「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

2024年度の事業進捗状況管理表

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度中間確認(9月末の状況)	2024年度末進捗見込み	2024年度達成状況	2024年度実績	備考
1 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進	(1) 住環境の改善	① 汚水管渠整備事業	下水道整備課	水洗化率 100% (2026年度末)	①整備延長 L=1.7km	①市街化区域、市街化調整区域及び道路関連事業等に伴う汚水管整備工事実施 ・汚水枝線工事 L=1.7km ②事業内容 ・配管費補助の継続 ・維持管理費補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定を明記し、合併処理浄化槽への転換を促進 ・啓発活動実施	①契約した工事については、順調に推移している。 未契約工事については、道路事業による用地取得の遅れにより着手できていない。 契約件数 8件 未契約件数 3件 ②確認状況 ・合併処理浄化槽設置補助申請 1件、うち実施完了 1件 ・維持管理補助の案内に、単独処理浄化槽への補助金廃止予定(2026年度)を明記し、送付済 ・設置補助案内送付6/10発送 76件	①中間確認で実施中であった工事については完了予定。 ②引き続き啓発活動を続け、合併処理浄化槽への転換基数の増加を目指す。			
		② 未接続家屋への汚水管接続の普及啓発指導	下水道整備課		汚水管接続件数 150件	未接続家屋に普及活動を行う。また、下水道未接続理由を調査するとともに、公共下水道の目的や役割などについて丁寧な説明を行うことで汚水管接続を促す。 ・2023年度に汚水管の整備が完了し、2024年度に供用が開始された地区の対象となる77件に「公共下水道(汚水)の供用開始についてのお知らせ」を送付し、公共下水道への接続を促した。 接続件数50件	・公共下水道に未接続の対象に公共下水道接続の案内文書を送付し、接続を促すとともに、接続予定時期や下水道に接続していない理由を確認するためのアンケート調査を実施する。				
		③ グリーストラップの適正な維持管理方法の周知	下水道管理課		管清掃延長(緊急) 0.52km削減	管清掃延長 3.84km以下	油脂の流出による汚水管の閉塞を防ぐために飲食店などを訪問し、グリーストラップの点検、清掃などの適正な維持管理方法を周知していき、油脂を起因とした詰まりによる管清掃延長を減らす。 汚水管の油脂点検調査を6月に約120箇所実施し、油脂が付着している箇所を把握した。 この調査結果を基に、把握した箇所周辺でグリーストラップの適正な維持管理方法を周知するため、店舗訪問する飲食店を抽出した。 上半期の管清掃延長は2.8kmで、目標値以内に収まっている。	管清掃延長が目標値内に収まるよう、抽出した飲食店を訪問しグリーストラップの適正な維持管理方法を周知、指導する。 また、周知後には油脂点検調査を実施し、周知効果を検証する。			グリーストラップとは、油脂等を下水道へ流入させないための装置
	(2) 河川の水質向上への貢献	① 下水処理水の水質向上	水再生センター	高効率散気装置 導入率89%	高効率散気装置 導入率44%	現在、高度処理化されていない、又は高効率の散気装置が導入されていない水処理施設が鶴見川クリーンセンターには5池、成瀬クリーンセンターには6池ある。 2024年度はそのうちの1池(鶴見川クリーンセンター分)を高効率散気装置に交換する。 鶴見川クリーンセンター1池について、2025年3月に従来の散気装置から高効率散気装置に交換する予定。	高効率散気装置導入率44%を達成見込みである。				
			下水道管理課		水路点検延長 6km	水路の効率的かつ効果的な維持管理を推進するため、2023年度に策定した水路点検要領に基づき、水路修繕計画策定のための点検を実施する。 水路修繕計画の策定のため、6月に水路等点検調査業務委託を契約し、9月から水路点検に着手した。	引き続き点検要領に基づく点検を実施する。点検結果を基に、水路構造物の劣化状況を取りまとめる。				
			下水道整備課		浄化槽維持管理費補助制度対象者の制度 利用率 60%	・浄化槽維持管理費補助制度の利用促進 ・三大義務(保守点検・清掃・法定検査)の未実施者に対する啓発活動実施 ・浄化槽維持管理費補助金対象者に申請書等送付 6/10発送 1,371件 ・啓発活動として、下水道事業計画区域外において、2022年以降三大義務(保守点検・清掃・法定検査)のいずれも未実施の者を対象として抽出し、啓発文書を送付 9/18発送 83件	引き続き啓発活動を続け、三大義務の実施による浄化槽維持管理補助制度の利用促進を目指す。				

「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

2024年度の事業進捗状況管理表

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度中間確認(9月末の状況)	2024年度末進捗見込み	2024年度達成状況	2024年度実績	備考
1 環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進	(3) 地球温暖化対策と資源の循環利用	① 温室効果ガスの削減	水再生センター	第3計画期間(2024年度末)5カ年平均25%減	基準排出量より2020~2024年平均で、25%削減	効率的な機器の運転等により、エネルギー使用を抑制し、温室効果ガス排出量の削減を図る。 成瀬クリーンセンターでは、安定的な高温(850℃)での汚泥焼却炉運転により、削減効果の高い温室効果ガス(N ₂ O)を定常的に削減する。 鶴見川クリーンセンターでは、町田市バイオエネルギーセンターで発電したCO ₂ 排出量が少ない電力を利用することでCO ₂ を削減する。	成瀬クリーンセンターでは汚泥の高温焼却(高温焼却によるN ₂ O削減)に加え、9月より再生可能エネルギー100%で排出係数0の電力の導入を開始し温室効果ガスの削減に努めた。 鶴見川クリーンセンターでは省エネに努めて電力使用量を低減することに加え、6月から町田市バイオエネルギーセンターから電力を直接供給する自己託送を開始することで温室効果ガスの削減に努めた。 水再生センター全体として、約47%削減した。	様々な省エネ施策を着実に実行することにより、水再生センター全体として、2024年度の目標である約47%の削減を達成できる見込みである。			
		② エネルギー・資源の有効利用	水再生センター	再資源化率99.5%	再資源化率98.5%	下水処理場から発生する全ての産業廃棄物(汚泥焼却灰や沈砂汚泥など)について、建設資材などへの再資源化を実施する。 排ガスのエネルギー(熱・圧力)を活用した「過給式流動燃焼システム」の導入に向け、鶴見川クリーンセンター汚泥焼却設備更新工事として、1号焼却炉の機器製作及び据付工事を実施する。	汚泥焼却灰 100% 沈砂汚泥 100% その他廃棄物 100% 全体の再資源化率は100%となっている。 鶴見川クリーンセンター汚泥焼却設備更新工事については、機器製作を進めているが、関連する耐震補強工事の影響により据付工事に遅れが生じている。	引き続き再資源化に努め再資源化率100%を達成できる見込みである。 機器製作が予定どおり完了見込みであるが、関連する耐震補強工事の影響により据付工事に引き続き遅れが生じる見込みである。			
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築	(1) 浸水対策の推進	① 浸水対策事業	下水道整備課	整備箇所数22箇所	整備箇所数2箇所	・浸水対策として、雨水管整備工事実施 ①鶴間4号雨水幹線その2及び枝線工事 ②本町田東1号雨水幹線その5工事(繰越分)	・①については、工事起工前の調整に時間を要したことから、2025年1月契約及び2026年2月の完了を目指し工事を進める。 ・②については、2023年度の繰越原因となった既設他企業埋設管の支障移設調整が長期化し、移設工事が大幅に遅延したことで、2024年度中に工事が完了できなくなったため、2025年10月の完了を目指し進めている。 未契約件数 1件 契約件数 1件(繰越分)	・①については、年度内の工事完了及び年度目標の達成が困難な状況。 ・②については、年度内の工事完了及び年度目標の達成が困難な状況。			
			下水道経営総務課		河川管理者へ河川整備の促進を働きかける	・境川について、境川流域総合治水対策協議会において、整備状況を確認するとともに、河川管理者に早期整備を要望する。 ・鶴見川について、鶴見川流域水協議会において、整備状況の確認を行う。	・境川については、5月と7月に河川管理者である神奈川県各土木事務所へ整備状況を確認し、早期整備を要望した。 ・鶴見川については、鶴見川流域水協議会において、「今年度の鶴見川流域水マスタープラン」の推進方針について協議した。	・境川については、河川管理者である神奈川県土整備局河港課へ10月に東京都建設局河川部計画課へ11月にそれぞれ整備状況の確認、早期整備を要望する予定である。 ・鶴見川について、引き続き鶴見川流域水協議会において、下半期の整備状況を確認する予定である。			
			下水道管理課		雨水浸透設備設置補助件数10件	個人住宅に対して、雨水浸透設備を設置する際に、補助金を交付し、雨水浸透設備の整備促進を図り、浸水被害の軽減に寄与する。	個人住宅に対して、1件の補助を実施し、1件の補助交付を決定した。	相談を受けている案件については、市民に対して丁寧に説明を行うとともに引き続き窓口などで雨水浸透設備設置補助制度を周知し、目標件数の達成に努める。			

「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

2024年度の事業進捗状況管理表

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度中間確認(9月末の状況)	2024年度末進捗見込み	2024年度達成状況	2024年度実績	備考
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築			下水道部全課		小中学校等の施設管理者へ污水管に雨水が流れ込まないよう取り組みを依頼する	6月の「浸水対策強化月間」に合わせて、市内学校施設校庭等にある屋外流し等から雨水が浸入しないような対策を依頼する。	予定どおり6月の「浸水対策強化月間」に合わせて、市内学校施設校庭等にある屋外流し等から雨水が浸入しないような対策を依頼した。	学校への取組のほかに、市民に対する広報活動を実施するなど意識の向上を図っていく。			
			下水道部全課		豪雨前のパトロールの実施 2回	梅雨入り前、台風シーズン前に水路、下水道施設の点検及び清掃を行い、浸水被害の低減を図る。 2024年度は、2回パトロールを行う。	上半期は、大雨や台風の前に、パトロールを3回行った。点検清掃により浸水被害の低減を図った。	今後も大雨の前に、随時点検清掃を行っていく。			
		② 下水道事業継続計画(水害編)の運用管理及び訓練の実施	下水道部全課	人命を守る犠牲者ゼロ	訓練実施回数 2回	<ul style="list-style-type: none"> 下水道BCP(水害編)を適切に運用する。 町田市総合水防訓練(図上訓練)に合わせて下水道BCP(水害編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図る。 下水道BCP(水害編)を必要に応じて修正・更新作業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道BCM部会を3回開催し、下水道BCPの運用管理を行った。 6月に東京消防庁と連携した町田市・第九消防方面合同総合水防訓練に参加し土嚢作成、土嚢積みを行った。 7月の町田市総合防災訓練(図上訓練)では被災対応及び町田市防災システム入力訓練を実施した。それぞれ予定どおり実施し、目標を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き1~2ヶ月に1回の頻度で下水道BCM部会を開催し、訓練の振り返りや今後の改善点を洗い出しするなど下水道BCPの適切な運用管理を行う。 下水道BCP(水害編)を必要に応じて修正・更新作業を行う。 			
	① 成瀬クリーンセンターの耐震化	水再生センター	耐震化率81.5%	耐震化率81.5%	2023年度より引き続き汚泥処理棟の建築構造物の耐震補強工事を進める。	汚泥処理棟の耐震補強工事を施工中である。	2024年度末時点では、予定どおり、工事が完了する見込みである。				
	② 鶴見川クリーンセンター・鶴川ポンプ場の耐震化	水再生センター	耐震化率 鶴見川CC71.2% 鶴川ポンプ場100%	耐震化率 鶴見川CC21.9% (現状値:21.9%)	2024年度より煙突基礎及び焼却炉棟の建築構造物の耐震補強工事を進める。	入札不調により工事の開始が遅れた。その結果、煙突基礎及び焼却炉棟の耐震補強工事にも遅延が生じている。	煙突基礎の耐震補強工事が完了する見込みである。引き続き、焼却炉棟の耐震補強工事を進め、2025年度に工事が完了する見込みである。			鶴川ポンプ場(ポンプ棟)は、2029年度耐震補強工事完了予定。	
(2) 地震対策の推進	③ 污水管の耐震化	下水道整備課	污水管の重要な幹線等の耐震化率100%(2021年度末)	—	—	—	—	—			
	④ 雨水管の耐震化	下水道整備課	雨水管の重要な幹線等の耐震化率100%	耐震診断実施 L=2.7km	<ul style="list-style-type: none"> 緊急輸送路などに布設され、かつ、液状化の可能性が高い雨水管の耐震化のため、雨水幹線の耐震診断実施 	<ul style="list-style-type: none"> 契約した耐震診断調査については、順調に推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> 契約件数 1件 	<ul style="list-style-type: none"> 中間確認で実施中の調査委託については完了予定。 			

「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

2024年度の事業進捗状況管理表

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度中間確認(9月末の状況)	2024年度末進捗見込み	2024年度達成状況	2024年度実績	備考
2 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築		⑤ 避難施設へのマンホールトイレの整備	下水道整備課	整備済み避難施設数 71施設 (2025年度末)	整備済み避難施設数 59施設	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度整備予定なし 計画では71箇所全ての避難施設にマンホールトイレを整備する予定であったが、都立高校においては学校建替え等に合わせ東京都が整備することとなり、未整備の小学校においては、学校再編に伴う建替えにあわせ整備する方針となったことから、2024年度以降において下水道部で整備するマンホールトイレは0となった。	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度整備予定なし 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度整備予定なし 			
		⑥ 下水道事業継続計画(地震編)の運用管理及び訓練の実施	下水道部全課	訓練と見直し実施	訓練実施回数 2回	<ul style="list-style-type: none"> 下水道BCP(地震編)を適切に運用する。 下水道BCP(地震編)に基づく訓練を実施し、下水道部職員の非常時対応の習熟を図る。 下水道BCP(地震編)を必要に応じて修正・更新作業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道BCM部会を3回開催し、下水道BCPの運用管理を行った。 9月に地震発生から3時間後までの初動対応、初動体制を円滑に作ることを目的としたBCP訓練を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き1~2ヶ月に1回の頻度で下水道BCM部会を開催し、訓練の振り返りや今後の改善点を洗い出すなど下水道BCPの適切な運用管理を行う。 下水道BCP(地震編)を必要に応じて修正・更新作業を行う。 11月には、9月の訓練に引き続き地震発生3時間後から6時間後を想定したBCP訓練を行う予定で目標を達成する見込みである。 			
3 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入	(1) 効率的・効果的な維持管理の推進	① 状態監視保全の維持管理	水再生センター	1) 下水処理施設の 詳細調査件数 100件以上 2) 下水道管の点検・ 調査延長54.2km	下水処理施設の 詳細調査件数10件以上	成瀬クリーンセンターで汚泥掻き寄せ機など5件、鶴見川クリーンセンターで反応タンク設備の送風機本体、鶴川ポンプ場で脱臭設備など5件、合計10件以上の下水処理施設の 詳細調査を実施する。	成瀬クリーンセンターで汚泥掻き寄せ機など2件、鶴見川クリーンセンターおよび鶴川ポンプ場で蓄電池盤を各1件、合計4件の劣化状況の 詳細調査を実施し、機能が確保できていることを確認した。	下半期に予定している6件の 詳細調査を計画的に実施し、設備の劣化状況の把握に努め、目標の詳細調査件数10件を達成できる見込みである。			
			下水道管理課		調査延長 54km	「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針に基づき策定した点検・調査計画の優先順位に従って、管路施設の異常の有無を把握するため、TVカメラ調査や目視調査などの簡易的な調査を行う。 2024年度は、学園・小山ブロックの管路施設54kmの調査を行う。また、2017~2019年度に実施した簡易調査や詳細調査の分析結果を踏まえて「町田市ストックマネジメント計画」の実施方針の見直しを行う。	下水道管路施設劣化状況簡易調査業務委託の契約を6月に締結した。現地でのTVカメラ調査や目視調査などの簡易的な調査は、9月末において30kmを実施した。	残りの調査延長2.4kmは10月末までに完了予定となっている。引き続き業務委託の進捗管理を徹底し、調査結果の評価・分析を行い、工期内の業務完了を目指す。			
		下水道管理課	点検箇所数294箇所	点検箇所 30箇所	下水道管の腐食が予測される箇所について、法令を遵守し定期的な点検を実施する。 2024年度は、河川部の伏せ越し及び、金井処理分区、成瀬処理分区、学園処理分区を対象に30箇所の点検を行う。	公共下水道維持管理・管渠清掃業務委託の契約を4月に締結した。点検業務の事前準備は7月までに完了した。	引き続き業務委託の進捗管理を徹底し、現場での点検を1月中に実施する。また、点検結果のまとめを行い、工期内の業務完了を目指す。				

「未来につなぐ下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)

2024年度の事業進捗状況管理表

※「経営戦略事業(小施策)」は、本編P57・58と同じ内容です。

基本方針	目的	経営戦略事業(小施策)	担当課	目標	2024年度末の目標	2024年度の事業内容	2024年度中間確認(9月末の状況)	2024年度末進捗見込み	2024年度達成状況	2024年度実績	備考
3 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入	(2) 計画的な改築更新	③ 汚水管への浸入水対策	下水道部全課	調査地域19地域	調査地域2地域	雨天時に浸入水の多い地区において、原因究明のため取付管TVカメラ調査、送煙調査、目視調査などによる詳細調査を行い、確認された不良箇所について改善を行っている。 2024年度は、高ヶ坂処理分区内の1地域において、管内のTVカメラ調査および送煙調査による誤接続確認を行い、原因究明と改善計画の策定を行う。 また、原町田一丁目地内の雨天時浸入水が多い地域において、TVカメラ調査および送煙調査を行い、浸入箇所の特定を行う。	雨天時浸入水詳細調査業務委託の契約を5月に締結し、高ヶ坂処理分区および原町田一丁目地内において管内のTVカメラ調査を実施した結果、浸入水の原因となる管渠の劣化を確認した。また、送煙調査により誤接続等の不良箇所も確認した。 原町田一丁目地内において、宅内雨どいの誤接続が一箇所発見されたが、住民の協力により誤接続は解消されている。 高ヶ坂処理分区においても誤接続等の不具合が複数発見されたが、対策については調査結果の取りまとめ後とした。	高ヶ坂処理分区および原町田一丁目地内の調査結果の取りまとめ、不具合箇所の対応方針についての改善計画の策定を行い、工期内の業務完了を目指す。			
		① 下水処理場・ポンプ場の改築更新	水再生センター	「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新の実施	改築更新工事件数 鶴見川クリーンセンター2件	鶴見川クリーンセンター ・水処理脱臭設備工事 ・汚泥処理棟建築工事他	鶴見川クリーンセンターにおける汚泥処理棟建築工事等は、2024年7月に工事が完了した。水処理脱臭設備工事については、工程どおりに遅滞無く、施工中である。	鶴見川クリーンセンターにおける水処理脱臭設備工事は、2024年度末に完了する見込みである。			
		② 管渠の改築更新	下水道整備課		改築工事実施 汚水 L=3.5km	・「町田市ストックマネジメント計画」に基づく改築更新工事実施 汚水 L=3.5km	・契約した工事については、順調に推移している。 契約件数 4件	・中間確認で実施中の工事については完了予定。			